

〔和漢名數地理〕山城國大橋五略○中

五條橋

〔山城名勝志十五〕清水橋云五條橋乎

〔京羽二重名四橋〕五條大橋 六條坊門加茂川に有元五條に有今松原の故にもとの名を以テ呼之、長サ

四拾四丈餘、加茂川と高瀬川とにまたがる也。

〔宇治拾遺物語七〕これも今はむかし、たゞあきらといふ檢非違使ありけり、それがわかかりける

とき、清水のはしのもとにて、京童部ともいさかひをえけり、

〔平治物語中〕義朝六波羅被寄事并頼政心替事附漢楚戰事

サル程ニ六波羅ニハ、五條ノ橋ヲ毀テ寄セ、搔楯ニ搔キテ待ツ所二○下

〔百練抄十三後堀河〕安貞二年七月廿日、風吹雨澤、洪水泛溢、四條五條等末橋流了、漂没之輩數輩云々、

〔園太曆〕康永三年八月十五日、今朝彼是云、東大寺八幡宮神輿入洛、武士奉防之間、振置五條橋上又○

見細々
要記

〔山城名勝志十五〕愛宕郡五條橋

或記云、後小松院應永十六年、新供養五條橋

〔東寺執行日記〕永享八年七月四日ヨリ八日マデ大雨、四條、五條、桂橋落流畢、

〔立川寺年代記後花園〕文安五年戊辰五月、九月大雨長降、天下大水損破多、此年略○中 五條橋墮、

〔碧山日録〕寛正二年正月十二日甲寅、去年蝗潦風旱、相繼爲災、國家凋耗弊亡、茲年正月、天下殺禮滅

食、飢餒者多、充飽者少、僧舍又止、方外之會、三月三日甲辰、清水寺有淨僧、是日於五條橋下、聚死尸

作家、其數一千二百餘人云、廿九日庚甲、相公義○足利 命建仁寺之一衆、開施食會於第五橋上、以薦

飢疫死亡之靈、且書牌曰、盡法界沒亡靈、是日平旦作是會也、若干而作之、死屍爛壞之臭不可觸、故急